



NO. 615
 発行 07・10月20日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者 守橋久仁雄
 編集責任者 宣部
 教

十二名
 発言

地本大会 代議員の発言

●強制転勤に出されて、今年の七月で三年ぶりに帰ってきた。東新潟機関区分会、新鶴見機関区分会など御協力、奮闘していただき帰ってくる事ができた。

●新人賃金制度に対する対策として現場労働者の多数派をつくる取り組みを強める。外注会社・嘱託制度の労働条件の改善、年度末一時金闘争を、春闘の流れをつくっていく。地本から支援をお願いしたい。現場では、乗務員の欠員、検修では技術継承が深刻だ。



○豊栄駅は夜間、料金の精算ができない。安全・安定・安心できる状況になっているのか。

●支部の状況では、直江津兼務問題など組織問題があり函館物販が取り組めない。

●新たな雇用制度では、三名以上で分会として組織化、国労に残れる。支部にとってはありがたい。しかし拡大を取り組んでいく。地味な活動を職場で進めていく。地本、支部、分会が一体となっていく。



○地震について、多くの激励に御礼を。

●運転士の立場から、睡眠時の無呼吸症候群（無呼吸）について残業で説明があった。検査結果で診断された場合①手術で治す②強制的に空気を入れる機械を装着する。この二つのいずれかを選択しなければならぬ。突然死の原因にもなるので手術にふみきった。車掌や信号担当者へ



●拡大していくのか？ライフサイクル延期になった理由は？新潟にも提案があるのか。

●職場では若い運転士に不安がある。①運転士へ強制的にさせられて責任だけ取らされている。負担増・人と接するのがいやになった車掌もいる。②運転士が事務へ移った。精神的にストレスがあり勤務できない。精神的にはいないと思うが、職場が変わると戻りたい社員も出てくる。

●中越沖地震で五名が災害。勤務は罹災適用になった。線路復旧は早い復旧だったが、猛暑なのに会社側はすごく急がせた。熱中症で救急車の手配が発生した。

●外注会社は高収入、人間の健康管理が行きとどいていない。越後線はお盆、信越線は花火大会までに復旧を考えていたのでは。運転再開は利益優先でやっていた。並行在来線、三市連絡会を発足。妙高でシンポジウム開く。月一回幹

ご苦勞様でした

★退任された役員
 ●執行委員 石川忠雄
 ○会計監査委員 細川興英



●工務協、運転無事故 出向期間もカウントすると本社団交で回答して事を開催。

●いるが、まだ支社では実施されていない。出向三年が六年も経過し七年目に入っている。プロパーの要請がおくれている。早く戻して欲しい。新幹線、湯沢でポイント割り出し。新型確認車は時速九〇キロ、ひとりで確認している。ひとり乗務は解消して欲しい。

○方針書から、羽越線脱線（いなほ）二周年、この問題について書いていない、取り上げるべきだ。執行体制について現状から四〇代が中心と考える。四党合意の総括がきちっとしていないから、それが原因なのでは。四者四団体の枠組み 不採用事件は解雇撤回としていきたい。年内解決と言っているが国労としてどうなのか。解雇撤回をきっちりやる。取り組んでいくこと。JR内の職場で



運動を起こしていく。支部・地本が指導していく。

職場に労働運動・闘いをつくっていくことが重要。会社側と対決していく。職場の闘い、分会の運動など方針書に記載を。機関紙についても会社側へ対決・批判をしていく。

問題提起と並行在来線問題だけでなく、羽越線の高速化・新潟駅の立体化も取り組んでいくこと。安全・労働条件なども大きく関係してくる。カードリーダーについて提案されていない。始業時間から終業時間までカード化される。問題ではないか。



●酒田支部は十五名の組織、分会のような体制になっている。今後について検討を。

春闘について「メーデーでは実行委員会、共闘組織などで取り組む。地域の仲間と一緒に労働条件改善の闘いを進めていく。線開く一時間五通告、羽越CTC件数制限。業務がはかどらない。重要度から業務が限られていく。秋田CTCは制限が無い。



○要員について、どこも欠員状態になっている。その場で対応している。現場は厳しい実態。団交で最優先でやって欲しい。乗務員・車掌の運の内容がその時によって基準が変わるような感じがする。

エリアの野球大会に新潟から十三名参加した。新潟支部の本多さんが参加してくれて、とても良かったと思う。

山根執行委員 あいさつ



当面の取り組みについて

★浦和事件～JR内の脱退・除名により新組合が発足している。(500名)さらに東北へ広がっている。国労の多数派をつくるのが重要になっている。

JR『ライフサイクル』提案～各労組が合意しない。国労への若い社員の加入がある。職場での要求を受け止めていくこと。JRの合理化提案について矛盾が広がっている。

★一括和解以降、まだ職場ではさまざまな状況。地本大会終了後、書記長、業長合同会議を開催。全職場の実態調査を年内までにやる。主任試験合格者の交流会を開催する。ブロック別の分会長会議・職場実態調査の実施。組織拡大へ。

★貨物の和解～協議を4回行った。まだ合意していない。①職場の中の公平・公正②適正な労務管理③お互いが正常な労使関係をつくっていく。申立人200名。配転・昇進差別事件などが対象。職場で抱えている問題も含めて行っている。本部が責任を持って対応していく。

★不採用事件 政治的背景、政治状況についても変わってきている。ねじれ現象。政治環境を本部が責任を持ってつくっていく。大衆行動を成功させていくために地域の人達への理解・合意を。今後の見通しについて意見を出し合っていく。

裁判闘争(東京地裁)・ILO～ユネスコと共同で、調査団が日本に入る。日本政府に対して勧告を迫る。政府の判断、政治的解決を。衆議院の解散～政局は不安定な状況。大衆行動を中心に進めていく。



○地震は、すごい揺れだった。その時踏切が鳴っていた。電車が定刻で運行されていた。地震の影響で連絡ができなかった。通信線が破断された、バックアップが無い状況。
信越線が不通、しかし北北線は早く復旧した。地震前は通常料金だが地震後は湯沢経由なので料金が高かった。従来どりの料金で、できないのか。

右曲がりのホームの問題と監視体制について車掌だけで確認できない。六く九両になると乗降が確認できない。ホームの監視要員の配置をして欲しい。車掌の要員不足と車掌の運転士合格により五名減。無計画な要員はやめて欲しい。
●予算計上が昨年より少ないが大丈夫か。



●機関運動の整備を全員で決めあつたものは協力して取り組んでいく。いろんな取り組みに参加していくこと。それをどうやっていくのか。分会機関の機能が、できないところは

どう指導していくのか。
組織拡大と国労らしい運動をしていく、目に見えるもの、それが拡大につながる。
職場の状況は十月十三日、新津車

両所で一般公開される。保線職場でも公開がある。工務と事務センターが変わっていく。職場では十月から変わると説明している。改善点、具体的にあるのか。



●団交について 工務と昨年の秋から報告されていない。要求が、どういふふうになっているのか、職場にかえて欲しい。分会ではわからない、連携を取るような運動を。